

## 【部会活動報告－近現代史ゼミ部会】

### フィールドワーク－旧新田郡と太田市の史跡を学ぶ旅

2017年9月23日（土）

旧新田郡を含む太田市は古代から中・近世、近代にわたる史跡の宝庫（内藤講師）です。今回の参加は定員オーバーの28名。解説は、歴教協の久保田順一さんと近現代史ゼミ講師の内藤真治さんが担当しました。

#### 1、生品神社（太田市新田市野井町）

新田義貞が鎌倉幕府を倒すため挙兵（百五十騎）した地とされている。1333年5月8日（または5月5日）のこと。挙兵後の義貞は八幡荘（高崎市八幡町）に向かい、そこから鎌倉街道を南下した。この間に各地の兵を糾合し、大規模な軍勢となって、途中、幕府軍を打ち破りながら、稲村ヶ崎から鎌倉に入った。太平記によれば、義貞が太刀を海に投じたところ、潮が引く奇蹟が起こったと記されている。他の十か所の遺跡とともに「新田荘遺跡」として国の史跡に指定されている。



新田義貞挙兵の地 生品神社

められており、現在は修復、復元されている。南曲輪からは眺望が開け、秋から冬の晴れた日には富士山やスカイツリーが見える。

#### 2、新田郡衙跡（太田市天良町）

新田郡の役所跡。正式には「史跡・上野国新田郡家（ぐうけ）跡」で、国指定史跡。7世紀から9世紀にかけて使用されていた。その範囲は東西400m、南北300mに及び、一般の郡衙（ぐんが）と比べて非常に規模が大きい。近くを東山道駅路、武蔵道といった主要道が通っており、朝廷の陸奥進出の拠点、兵士や武器、食糧などのための基地としての役割を果たしていたと考えられる。

#### 3、金山城址（太田市金山町）

金山は太田市街地の北に位置する独立丘陵で、万葉集にも「新田山（にひたやま）」と詠まれている。ここに文明元年（1469年）、新田一族の岩松家純が城を築いたのが金山城の始まり。戦国時代の幕開けにつくられた山城だが、築城年代がわかる城は珍しい。有力戦国大名からたびたび攻撃をうけるが、一度も落城しなかったという。山頂周辺は石垣で固

#### 4、新田乃庄（昼食・太田市寺井町）

店のパンフレットには「鎌倉初期、源氏の嫡流、源義国が上野国に移り住み、その長男義重が初代新田氏として寺尾に城を築き、現在の新田・太田を含む『新田ノ庄』を始めました。」とあり、現在、食事処の新田乃庄はこの寺尾城跡に建っていると説明している。寺尾城は「吾妻鏡」にある寺尾館と同一のものとみられるが、寺尾館の位置については太田市寺井町説と高崎市寺尾町説とがあり、店側の説明とは違って近年は後者が有力であるらしい。

#### 5、長岡寺（ちょうこうじ）（太田市西長岡町）

太平洋戦争中、労働力不足に困った日本政府は中国人の強制連行を行った。その数約4万人、日本全国135か所の事業所で過酷な労

働を強いられ、約6千人以上の犠牲者が出た。この太田の地にも1945年4月末、280人が連行され、トンネル（中島飛行機の地下工場建設工事・工事業者は鹿島組）を掘る重労働に従事させられ、半年間に50名が命を落とした。遺骨は長岡寺に埋葬され、1977年、日中友好協会の慰霊碑が建てられた。

平林たい子の短編『盲中国兵』に、長野県木曾谷の工事現場から太田に移送される途中の彼らの姿が描写されている。

以前フィールドワークで訪れたみなかみ町の如意寺の慰霊碑も、岩本発電所導水路工事（工事業者は間組）とともに後閑の中島飛行機地下工場建設工事の犠牲者を祀ったもの。群馬県ではこれら3か所に中国人が強制連行され、過酷な労働に従事させられて多くの犠牲者が出た。

中国人が補償を求める裁判では非人道的な労働の実態を認めながら、日中共同宣言で請求権を放棄したとして、原告の請求を却下している。

## 6、天神山古墳（太田市内ヶ島町）

5世紀中葉から後半に造られた前方後円墳。墳丘の全長は208mで、全国で第26位、ただし、当時の政権の中核であった奈良県と大阪府を除くと第3位で東日本では堂々の第1位。二重の濠を含めると長さは355m、平坦な土地に土を積み上げるという大がかりな土木工事を行っている。後円部の墳頂に竪穴式の主体部がつくられているが、江戸時代にはすでに盗掘されていて、長持形石棺が掘り出されていたとの記録がある。長持形石棺は畿内有力者が用いた石棺であり、この古墳の被葬者も畿内大和政権と強いつながりを持っていた人物と思われる。周辺に2基の陪塚（ばいちょう）があるほか、北東に300m離れて帆立貝式の女体山古墳（全長106m）がある。天神山古墳と同じ向き、同じスケール（晋尺）を使っていることから同時期のものと思われる。

## 7、中島知久平邸（太田市押切町）

中島飛行機製作所の創設者である中島知久平（1884～1949）が昭和の初めに両親のために築いた住宅。戦後は進駐軍に接收されるなどしたが、2009年太田市の所有となり、2016年に国指定重要文化財となった。敷地面積一万平米を超える大規模住宅で、両親の家と言っても、西側の車寄せや応接室、南側の客室などは来客をもてなすための公的な部分となっている。

客室から南側を望むと、利根川の河川敷にあった中島飛行機の飛行場から離発着する飛行機を眺めることができたという。特攻機にも使われた零戦（零式艦上戦闘機）も、設計は三菱だが、中島飛行機がライセンス生産という形で総機数の3分の2以上を作っていた。特攻機の一部もこの地で作られ、日本各地の基地に飛び立っていったのだろうか。

【零戦の生産はこの周辺では中島飛行機小泉製作所（現大泉町）で行われた。】



中島邸は旧尾島町、利根川まで1km足らずの地

### 【参加者の感想より】

当日は大変お世話になりました。群馬の史跡、歴史を振り返るとともに、新しい学びに興奮しました。県外の友人達にも知らせてみました。学校や若い世代の人々に利用していただく意義があるように思います。どうしたら伝えていけるのか、考えてみたいと思います。皆様、本当にありがとうございました。（三輪規子）

《文責・設楽春樹》